

検温システム

TBW-LS20

サーモカメラ

特許出願中



メリット 瞬時に検温出来る

デメリット 検温データを個人に「紐付ける」事がむずかしい
高価 ~数百万円以上

TBW-LS20



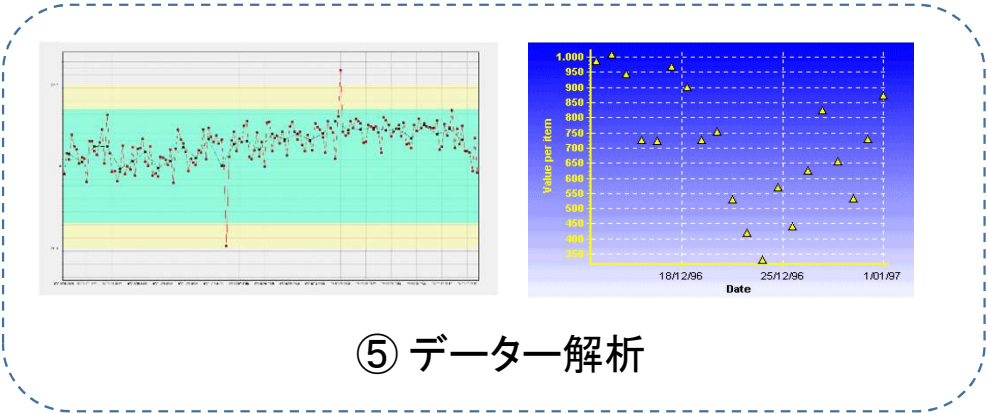
メリット

検温データを「紐付け」できる 低価格

デメリット 他人数を瞬時に処理する事がむずかしい

特許出願中

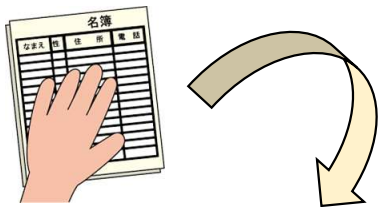
TBW-LS20 全体の流れ



③ ID読込



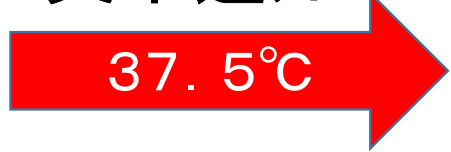
① 名簿をデータベースにします



④ 検温



異常通知



指定したアドレスに検温値等を通知できます。

② QRコード作成



検温システムについて

① TBW-LS20

- ① バーコードリーダーからIDを取得して「検温値」をデータベースと連携します。
- ② 非接触体温計で体温を収集して、データベースに記録します。
- ③ 検温値が「37.5℃」以上を記録すると、指定アドレスにメールを送信します。

② バーコード・QRコード作成システム

- ① データベースのIDをバーコード又はQRコードに変換してシールプリンタに印刷します。
- ② ①の時IDを暗号化して「検温システム」以外には判読できないようにします。

③ 集計システム

- ① 体温を継続してデータベースに蓄積する事で「変化の見える化」が出来ます。
- ② 「体温のトレーサビリティ」(測定場所・測定時間・測定時の気象)が可能です。
- ③ 体温の平均値(取り数=n)を管理する事で、平均体温を線形にして把握する事が出来ます。
- ④ 体温の標準偏差(取り数=n)を管理する事で、体温の傾向(上昇・下降)を把握する事が出来ます

購入品



非接触体温計



バーコードリーダー



バーコード・QRコードプリンタ

メール送信機能

データを残せる「検温システム TBW-LS20」

基準体温37.5度より高い場合は、写真付きの検温データをメール送信できる。

写真が送付されるため、容易に高熱者の特定を行うことができる。

高熱者に対して迅速且つ的確な処置をすることにより濃厚接触者を最小限に抑えることができる。

新しい生活様式になって、毎日測っている体温
どうやって記録していますか？

体温は測るけど、書き留めるのは面倒…

学校、職場等に報告しなければならないので、測るけど、記録まではしていない
でも、実は「体温の変化」がとても重要なのです。(資料①)

「検温システム TBW-LS20」で、ピッと体温を測れば、その場でパソコンに記録・保存ができます。

体温の履歴から平熱を知ることができ、また、ウィルスに感染した可能性がある時期を推測できます。

一人ひとりからの報告を待っているのではなく、学校、職場、スポーツセンターなどに

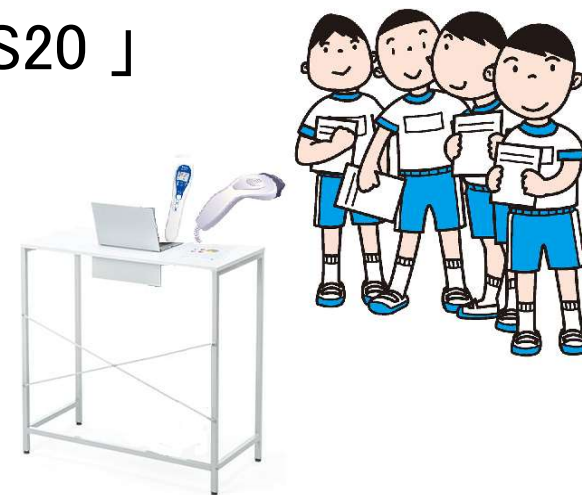
「来た時検温＝記録」で、管理者・利用者共に手間なしでデータ保管までできます。

検温システムはサーモグラフィ体温計のように不特定多数の検温とは違い、個々のデータとして管理するため、

学校やカルチャースクール、塾などで出席管理としても役立ちます。

基準体温37.5度以上(資料②)だった場合、

平熱よりどれくらい高いのか、急な発熱なのか、等の判断材料になり得る。



特定者データ管理

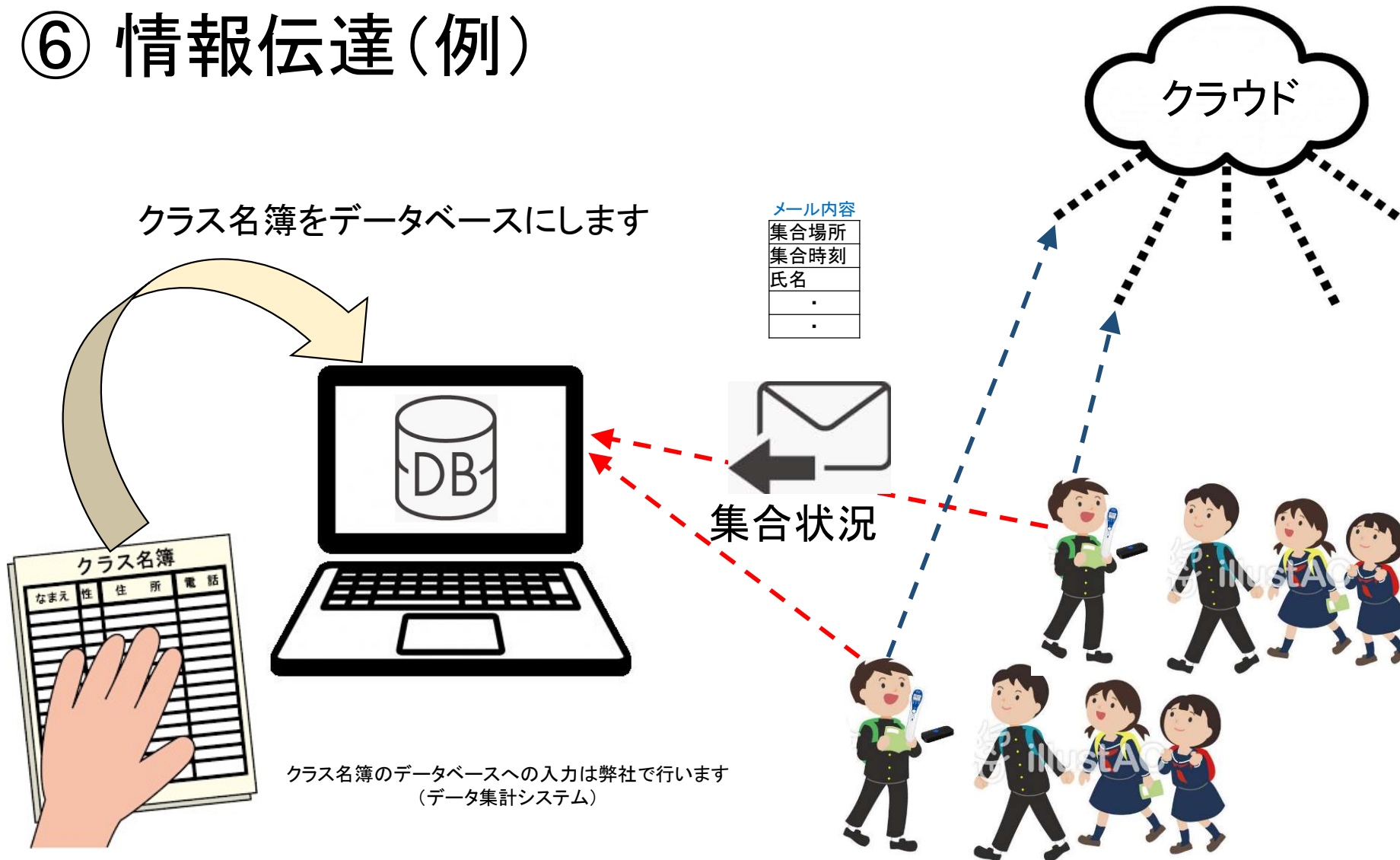
出欠の記録に利用できる

特許出願中

学校での導入効果

修学旅行
プール授業

⑥ 情報伝達(例)



⑦ プール授業の検温など

検温＋出席確認



出席状態・検温値などは、
校内パソコンへアップします。



バーコードリーダー



検温器



学習塾導入効果

出席確認
メール

検温システム

TBW-LS20

特許出願中

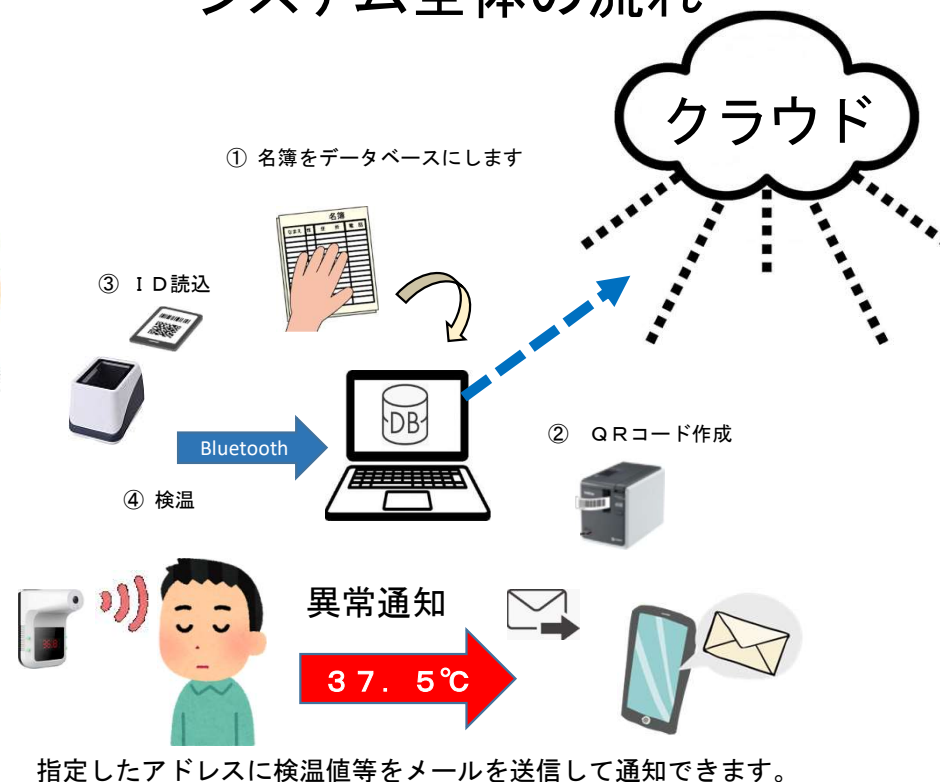
ペーパーレス



濃厚接触者



システム全体の流れ



⑤ データー解析

利用者へ新しいサービスへの挑戦

月間利用状況データの「見える化」

1. マシン使用状況をWeb公開サービス
2. 運動時間の集計サービス
3. マシン使用時間集計サービス
4. 日別消費カロリーの集計サービス

機器保守サービスへの指標

マシン使用時間集計

